

目次

【特集】			
新代表挨拶	岸田 直裕	1
【YWP活動報告】			
Japan-YWP第4回総会兼セミナー	岸田 直裕	2
Japan-YWP第3回国際シンポジウム	小野寺 崇	3
[初開催] お仕事セミナー	酒井 宏治	4
第4回イブニングセミナー	関 隆宏	4
【手紙 ～拝啓 若手の君へ～】 気軽に国際活動へ参加を	松井 庸司	5
新連載 【世界のYWPから】	Christian LODERER	6
【Japan-YWP入会方法とお問合せ先／編集後記】		7

●2014年4月より新代表が就任しました！

特集

新代表挨拶

岸田 直裕(国立保健医療科学院)



2014年4月より春日前代表の後任としてJapan-YWP代表に就任いたしました岸田です。任期は2016年3月までの2年間となります。代表就任の推薦を受けた際は、前代表のような貫禄を有していない小職にこのような大役が務まるものかと不安に思いましたが、貫禄のない人間だからこそ作れる組織の雰囲気もあるのではないかと前向きにとらえて、引き受けさせていただきました。

会員の皆様から「敷居が高くセミナー等に参加しづらい」という意見をよくいただきます。このため、誰もが参加しやすい雰囲気作りを進めていけたらと考えております。また、諸外国のYWP組織と比較して、これまでは水分野の学生との関わりが薄かったことから、本ニュースレターの4ページ目にも書かれている通り、学生向けのイベントも今期から新しく企画することとしました。

ところで、先日、YWP関連イベントにて知り合ったお二人が結婚するとお聞きして、大変嬉しく思っております。YWPイベントでは、交友関係を築き易い、敷居の低い雰囲気作りを心掛けておりますので、多くの方々にご参加いただくと幸いです。このような思いがけない出会いもあるかもしれませんよ。

運営委員一同、Japan-YWPをより魅力的な組織にしていけるように努力していきますので、ご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

Japan-YWP第4回総会兼セミナー



岸田 直裕 (Japan-YWP代表、国立保健医療科学院)

2014年2月8日(土)に日本水道協会にて、Japan-YWP第4回総会兼セミナーが開催されました。当日は、大雪にもかかわらず、水関連の研究者、事業体関係者、民間企業若手職員など総勢約40名の出席者があり、盛況な総会となりました。

総会兼セミナーは二部構成として、第一部では、総会ということで運営役員からの活動報告や次期の運営体制、今後の活動予定の紹介を行いました。第2部では、セミナーとして以下の通り講演が行われました。

(1) 基調講演

高橋 郁 (特定非営利活動法人ウォーターエイドジャパン 事務局長)
「水・衛生分野の国際協力とWaterAidの活動紹介」

(2) YWPメンバーからの一般講演

①松村 隆司 (新日本有限責任監査法人インフラストラクチャー・アドバイザーグループ シニアコンサルタント)

「上下水道における新しいPPP/PFI～上下水道コンセッションの現状と課題～」

②安田 将広 (環境省水・大気環境局水環境課 課長補佐)

「下水道・水環境行政での経験と産学官連携に向けた取り組み」

③見島 伊織 (埼玉県環境科学国際センター 水環境グループ 主任)

「地環研から見た水環境」



当日の講演資料については、Japan-YWPのメーリングリストを利用してメンバー宛に送付しております。またYWPのHPでも公開しております (<http://www.japan-ywp.net/archives/586>) ので、興味のある方はぜひご覧ください。

今後もYWPメンバーの交流を促進できるようなセミナー等を企画していきたいと考えておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。



Japan-YWP第3回国際シンポジウム



小野寺崇 (YWP運営委員、(独)国立環境研究所)

2014年6月28日(土)に、WET2014と併せて、公益社団法人日本水環境学会との共催でJapan-YWP第3回国際シンポジウムを開催いたしました。今回は、「最新の研究課題と若手水専門家間の国際協力」と題し、アジア各国で活躍されている3名の若手研究者の方々から話題提供を頂きました。



マレーシアUniversiti Teknologi Malaysia (UTM)のNorhayati Abdullah上級講師(左写真)は、UTMを卒業後、Newcastle Universityの修士課程に留学され、帰国後にUTMにおいて博士号を取得されました。YWPの活動や運営に積極的に参加されており、2012-2014年のYWP運営委員、2014—2016年のIWA YWP代表の要職を務められ、その優れた活動実績から2012年のIWA世界会議(釜山)において、IWA YWP Award 2012を受賞されております。「Opportunities in Water for YWP」と題した発表では、YWPの活動について運営に携わった経験から、YWPのVisionや活動内容を具体的にご発表頂きました。国際的なYWPの活動に関して理解が深まるとともに、国内YWPの活動へのモチベーションアップにもつながるものでした。

タイChulalongkorn UniversityのParinda Thayanukul講師(右写真)は、Mahidol University卒業後、東京大学に進学して博士号を取得し、現在はタイで講師として活躍されております。「What's distinctive about Research in Developed Countries and Developing Countries」と題した発表では、先進国と途上国の研究を取り巻く環境を示すとともに、日本とタイでの実験の経験から、お金が無い中でどのように適応して研究を進めていくか、ユニークなアイデアを交えてご紹介頂きました。また、予算が潤沢な先進国に対して、途上国ではどのようなテーマでどのように研究を進めていくべきか示されており、テイクホームメッセージには途上国との研究連携のヒントがあると思われました。



名古屋大学の栗田貴宣助教(左写真)は広島大学で博士号を取得された後、JSPS特別研究員として、デンマークAalborg UniversityのPer Nielsen教授の研究室に留学されました。「My challenge to study abroad」と題した発表では、デンマークに留学するチャンスを掴んだ経緯、研究ライフの様子、現地での生活などをご紹介頂きました。キャリアアップのために留学を考えている参加者にとっては、とても身近に感じる発表であり、本発表を見て留学を決心した参加者も少なからずいるのではないかと思います。

本シンポジウムでは、留学生、日本人学生、若手研究者を中心として、総勢70名の参加人数に恵まれました。当日の詳しい様子や発表スライドはYWP会員向けに2014年7月18日(金)に配布しておりますので是非ご覧下さい。今後もJapan-YWPのイベントへの参加を宜しく願いいたします。

YWPイベント報告

【初開催】お仕事セミナー

酒井 宏治 (YWP運営委員、東京大学)

Japan-YWPでは初めて、学生を主な対象としたイベントとして、2014年8月2日(土)にお仕事セミナーを開催いたしました。セミナーでは、岸田代表からご挨拶及び趣旨説明をいただいた後、メタウォーター川上様及び酒井から2件の話題提供を行いました。酒井からは、現在携わっている国際交流プログラムを通じた人材育成について、大学の取組みを紹介しました。メタウォーター川上様からは、「日本の水道事業の環境変化と民間企業の関与」として、現在の水道事業に関する概説と、学生への熱いメッセージをいただきました。

その後の交流セッションでは、仕事に就いているYWP会員から、学生会員へ実際の仕事について、自身の体験を交えながら、ご紹介をいただきました。紹介側の会員の所属先は、省庁・自治体・プラントメーカー・コンサルティング会社・シンクタンクなど多岐にわたりました。

紹介側で参加した会員からは、「もともと水に興味を持つ学生が対象のため、熱心に話を聴いてくれてやりがいがある」との声をいただきました。紹介側は10数団体に上り、学生もそれと同数程度の参加がありました。学生の側からも、「水を扱う団体が集まっているので、自分の興味のある企業を効率的に回ることができる」と好評でした。

このように初めてのイベントでしたが、「水」にテーマを絞ったイベントということで、学生・社会人双方から好評をいただきました。一方、運営の面ではいくつかご意見をいただきましたので、次回以降は改善していきたいと考えております。



第4回イブニングセミナー

関 隆宏 (YWP運営委員、メタウォーター株式会社)

2014年8月18日(月)に開催致しました第4回イブニングセミナーは、多くの関係機関・企業等の方から参加申し込みを受け、当日は20名弱の出席者の中、盛況に終えることができました。今回のセミナーでは3名のYWPメンバーより、下記の通り発表いただきました。

- ① 吉川 泰代 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)
「PCKK の取り組む研究プロジェクトとPPP 事業の紹介」
- ② 高橋 惇太 (水ing 株式会社)
「水総合事業会社に入社して」
- ③ 安井 宣仁 (独立行政法人土木研究所)
「農業利用を想定したUF 膜処理による下水再生水のNorovirus 感染リスク評価」

セミナー後には意見交換会も開催し、こちらも盛況な会となりました。今後とも様々なセミナーを企画して参りたいと思いますので、引き続き皆さまのご協力をよろしくお願い致します。

手紙 ～拝啓 若手の君へ～

気軽に国際活動へ参加を

松井 庸司

(前日本水道協会研修国際部長、現株PUC参与)



日本水道協会を10月末に定年で退職した松井です。日水協では2010年3月のJapan-YWPの設立にかかわり、その後もYWPのアドバイザーという立場で、日水協研究発表会でのワークショップ開催や東京アスパイアー剰余金によるYWP支援など、YWPに関係してきました。素晴らしい展開をみて、うれしい限りです。

退職の挨拶がわりに、YWPの皆さんに、もっと海外に目を向け、気軽に国際的な活動に取り組んでいただきたいというような話をさせていただきます。

実は、私個人は、初めての海外は、37歳のときで、JICA専門家としてタイへの派遣でした。それまで海外旅行にも出かけたことがなく、事業体の事務職ですので、国際活動には縁がないと考えていました。

突然のタイ派遣では、水道訓練センターで経営コースの立上げを担当しましたが、そこで恥ずかしい経験がありました。現地業務では、まず、いくつかの日本のテキストを参考に英訳しながら研修教材の作成から始めました。1987年当時は日本発の経営手法も盛んでしたが、経営学の基礎は米国の経営学者の著書を和訳したものでした。つまり日本語に翻訳したものを、また、英語にしようと四苦八苦していたわけです。このとき英語の原著をタイのカウンターパートから指摘され、日本で教えられていることの多くは海外から輸入していることを改めて思い知らされました。

当時私は、東京都水道局で何回かの料金改定作業に遭遇し、水道経営の難しい部分を経験したという、いっばしの水道経営のプロという意識を持っていたと思います。ただ、海外の水道経営について勉強していたわけではなく、井の中の蛙でした。カウンターパートが日本人専門家をどう見ていたかと考えると、今でも冷や汗が出ます。

その後、インドネシアで同じようなJICAプロジェクトがあり短期専門家で派遣されましたが、海外のことも視野に入れようとAWWAやIWSA(現在のIWA)のメンバーになり努力しました。あまり知識を得た認識はありませんが、その経験が二度目のJICA専門家の業務に自信を与えてくれました。担当業務の海外での状況を知ろうというところから始めたわけですが、その過程は、自分は日本でもっとも進んだ担当者ではないかというような高揚感があり、日常業務への大きなモチベーションにもなった気がします。

現在、海外水ビジネスへの取組が水道事業体も巻き込んで進められています。国際協力でもビジネスでも海外で仕事をするには、世界のことを知り海外の先進事例を積極的に研究する必要があります。個人レベルで、多くの人が、若いうちから海外を意識し、国際業務とは直接関係のない職場においても、ベストプラクティスを求めて世界を知る習慣が欲しいと思います。事業体職員や産業界で働く皆さんにもその意識をもつことが、プロを育て、国際競争力を育てることになると思います。

最近ではウェブサイトで多くの海外情報があつて国際会議に参加したり海外調査に出かけたりしなくても、特定の業務に着目しネットサーフィンするだけで国際的な土地勘を養うことができます。2018年にはIWA世界会議が東京で開催されます。身近なところから始めて、気軽に国際活動に参加していただきたいと思います。

<ご略歴>

1973年東京都立大学経済学部卒業、東京都水道局へ。文京営業所長、多摩財務調整課長、主計課長、水道特別作業隊長、経理部長、多摩調整部長などを歴任後、2007年東京都庁を退職し日本水道協会・研修国際部へ。2014年日本水道協会・研修国際部長退任。現在、東京都水道局の出資団体である株PUC参与。JICA専門家としてタイ水道訓練センター、インドネシア訓練センターへ派遣、2002~08年IWA戦略評議会委員を務める。

【新連載企画】世界のYWPから

●今回と次回は、Christianがウィーンよりお送りします。

Dr. Christian LODERER
Sales engineer, Aquaconsult GmbH, Vienna
IWA young water professionals 西ヨーロッパ代表
Vienna YWP代表



2014年、国際応用システム分析研究所 (IIASA*) 最高経営責任者兼所長であるKabat教授へのインタビューを実施したので、その内容を共有させていただきます。今回は、Kabat教授が考える「地球規模の環境問題解決方法」及び「水研究のおもしろさ」についてのインタビューを紹介します。

Christian: IIASAの重要性、役割を教えてください。

Kabat教授: 地球システム科学者として、地球全体の状態を見て見ると、地球システムの一部は、元の状態に戻りできない「ティッピングポイント」にまで近づいていることがわかります。地球環境問題の解決はそれほど喫緊の課題であると言えます。過去50年で環境意識は指数関数的に増加していますが、意識だけではだめで、最終的には解決するための術が必要となります。私は、地球環境問題の解決には、科学者による技術開発だけでなく、政策立案者と科学者が一緒になって「地球の未来を守るための方策」を緊密に相談する必要があると考えています。IIASAは、高レベルの国際的かつ学術的なシステム分析に関する知見とネットワークを有しております。これらの研究に加えて、これからは政策立案者と協働した取り組みを進めることで、世界の環境が持続可能なものに向けて進展することを信じております。

Christian: Kabat教授の研究に対するモチベーションはどこからくるのでしょうか？

Kabat教授: 私は博士号取得までは数学と物理学をこよなく愛する学生でした。博士号を終えた後、数学の応用先を考えた結果、水や大気モデリング始めることになりました。次第に、その研究が大気や水循環に拡大し、とうとうシステムモデル開発を研究するようになりました。だから、私の場合は初めから水の研究をしようと思ってした訳ではなく、数学に関する興味から水の研究へと次第に発展していったのです。

私はいつも異分野・横断的に働くようにしています。水は、科学・政治・行政の観点から横断的に議論出来るトピックの一つであると考えております。すなわち、水は「コネクタ」であり、そのような水の持つ横断的な特徴に私は強く引きつけられました。今では、多くの科学者のコネクションが必要となる地球温暖化の解決について、勢力的に活動しています。

Christian: IIASAは中東、東南アジア、中央アジアのほか、南米やアフリカとの関係を強化しようとしています。なぜ今、これらの国との関係を強化しているのでしょうか？また、関係構築は、気候変動や水問題の解決にどのような役割を持っているのだろうか？

Kabat教授: IIASAは、これまでに蓄積した幅広いネットワーク基盤を利用して、今後とも多くの国と国際的なパートナーシップを構築します。このパートナーシップは、国家間の制度の違いを乗り越えたつながりを構築できるので、気候変動や水問題のような複雑な問題解決に貢献出来る組織になると考えております。

(次のページへ続く)

* IIASAは、1972年10月に、成熟社会に共通する諸課題を研究するために、東西両陣営の主要国がその政治的立場を離れ、同等の参加を目指した非政府ベースの国際研究所として設立されました。東西緊張が解消した後には、地球規模の諸課題の解決に資するシステム分析を中心とする研究を展開し、これまでノーベル賞受賞者を輩出している他、IPCCのリード・オナー等をつとめる専門家を擁する世界有数の国際研究所として活躍しているところです。

(前ページより続き)

現在、我々はあまりにもたくさんの地球環境問題を抱えています。IIASAの研究によると、アジアが今後数十年の水問題のホットスポットとなります。これは単なる水不足の話ではなく、気候変動による海面上昇や沿岸の地盤沈下に起因する塩分侵入等も含まれます。実際に、ベンガル湾では塩分問題が深刻化を増しており、何千人もの「塩分難民」が発生しています。また、アフリカについての研究では、サハラ以南の国で、水インフラを南アフリカの水準にまで改善するためにかかる時間を計算してみました。その結果、最低でも50年がかかることがわかりました。アジアやアフリカには、緊急かつ長期間の対策が必要となる問題が山積しています。

このような環境問題を解決するにあたって、1970年代は我々の知識や技術を途上国に輸出することが主でした。しかし、今は違います。我々は、途上国とパートナーシップを構築し、共に持続可能な社会の実現に向けてパラダイムをシフトすることが求められています。そのためには人材が必要です。現在IIASAでは、若手サマープログラム(YSSP)やポスドクプログラム等により、これらのパートナーシップ国の若手に対して、教育・訓練の場を提供しています。

(次回に続きます)

Japan-YWP入会方法とお問合せ先

Japan-YWPは、随時会員募集中です。会員要件は、大学・研究機関、官公庁、上水道・下水道事業体、民間企業などに所属する水関連の若手・学生(原則35歳以下)とし、専門内容やIWA会員であることの有無は問いません。また、年会費等は不要です。入会手続きはメールまたはWEBサイトから行えます。

■メールから

入会希望の方は、

- ①所属
- ②氏名
- ③生年月日
- ④E-mailアドレス
- ⑤専門分野

を明記の上、以下のメールアドレスまでお気軽にお申込みください(japanywp@gmail.com)。

■Webサイトから(右図参照)

Webサイト(<http://www.japan-ywp.net/>)の入会フォームからも入会手続きが可能になりました。トップページの「お問い合わせ・入会申し込み」から入会フォームへお進みください。



こちらから
入会申込みができます!

編集後記

2014年度よりJapan-YWPの運営体制が一新し、ニュースレターも新企画...ということで、今号から「世界のYWPから」の連載を始めました。オーストリアYWPのニュースレターから、世界のYWPの活動を知ろうという趣旨です。Japan-YWPも積極的に国外への発信を進めていきたいと考えています。今後も皆様が興味を持たれるようなニュースレターを目指してまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

Japan National Young Water Professionals Newsletter Vol.9

発行 : 2015年1月30日

発行者 : Japan National Young Water Professionals(代表 岸田直裕)

編集 : Japan National Young Water Professionals広報委員

ホームページ : <http://www.japan-ywp.net/>